

医療経営士のための 職域の研究Ⅱ

事務長業務編 ①

これからの病院経営に求められる 事務長の役割と経営人材育成

——経営する組織体制を構築できているか？

病院はかつてないほど厳しい経営環境にあり、6病院団体による「2024年度診療報酬改定後の病院経営状況」における緊急調査結果では、医療利益の赤字病院の割合は69%、経常利益の赤字病院の割合は61%となっている。そのようななか、病院は経営の要となるべき事務長・経営人材が力を発揮する組織体制を構築できているのだろうか。

経営と運営の違い

現在では当たり前に病院経営という言葉が使われていますが、ひと昔前までは、病院経営という言葉よりも病院運営という言葉のほうが一般的だったように思います。「経営」と「運営」は類似した言葉ですが、実際にはどのような違いがあるのでしょうか。

「経営」の意味を『大辞林』で確認すると、「方針を定め、組織を整えて、目的を達成するよう持続的に事を行うこと」とあり、「運営」は「組織や機構などを動かし、うまく機能するようにすること」とあります。

具体例を挙げると、スポーツ大会などは経営するとは言いません。営利を目的としないという側面もありますが、そもそも、大会の目的や方針が定まっているので経営ではなく、運営を用います。

病院事務長の皆さんは、病院経営を担っていますか？ 病院運営つまり病院をうまく機能させることだけにとどまてはいないでしょうか。また、そもそも経営トップや組織は事務長に経営する役割を求めていますか？

これからの事務長は病院を「うまく機能させる」だけでなく、病院トップとともに「経営」できることが求められていると思います。

事務長にどのような役割を 求めるか

事務長という役職名が一般的に使われていると思いますが、事務部長という名称も多い印象があります。事務長と事務部長の役割の違いはあるのでしょうか。

筆者は、事務長は病院組織全体のなかで経営全般を担う役割を指し、事務部長は診療部長や看護部長、医療技術部長と同様に部門の長という意味合いが大きいと感じます。また、理事長や院長の直轄に経営部門を配置している場合は事務長を置かないケースや、事務部長との役割の違いを明確にし、

平間康宣 (ひらま・やすのり)

医療法人仁友会仁友会本部本部長／北彩都病院事務長／事務長業務対策委員会委員長／医療経営士1級、医療経営指導士、介護福祉経営士1級

